

丹波市男女共同参画センターだより

パートナーと一緒に考える ウィズコロナ時代の子育て



勝木 洋子さん
姫路日ノ本短期大学 学長

先日の記事に『男性の育休「取るだけ」ではダメ』（2020/12/6 神戸新聞）とありました。「積極的に家事こなして妻サポート」と見出しがあり、取るだけ育休にならずに必要なスキルを習得したり、役割分担を話し合ったりするなど準備をしておこうという内容でした。佐藤健介さんという男性記者の署名記事であることも興味を持って読みました。

育児休業をとることが男性にとってメリットがあると書かれていて「・お互いをいたわる気持ちが増した。・悩みや大変さを共有し、孤独ではなくなった。・育休中に自信がついたようで職場復帰後も育児に参加している。」などがあがっていました。パートナーとコミュニケーションを取ることで子育てが主体的に行えるようになり、家事・育児の楽しさに変化していくのだと思います。

さて、おむつを入れる「マミーバッグ」をご存じでしょうか、最近はリュック型もたくさん出ているようです。娘の出産を手伝いに行ったとき、娘のパートナーが新しいショルダーバックを購入し、見ているとおむつ、お尻ふき、ガーゼ、タオルなどを入れて嬉しそうにしています。娘のマミーバッグは買ったのにとっていると、「僕のダイアパーバッグ*1」と言って見せてくれました。また別のシーンでは母乳を授乳した後、夜中はパートナーがゲップをさせてベビーが眠るまで抱っこしています。その間母親は横になって休むことができました。

沐浴もはじめはこわごわでしたが、育児休暇中に上手になってどんどん素敵なパパになっていきました。

深谷昌志さん（教育社会学者）の調査で家事・育児をする父親は、そうでない父親より子どもからの評価が高い（かっこいい、仕事ができる、お金を儲けているなど）と書いておられたことを思い出しました。

コロナ禍の中で里帰り出産がままならず、祖父母世代が高齢者なら遠方への移動はリスクが高いので、頼れるのはパートナーしかいない現実がウィズコロナの時代にあきらかになりました。ステイホーム中に子育てのスキルを磨き、子どもからの評価が上がれば一石二鳥です。子どもは信頼できるおとなが側にいてくれることで気持ちもゆったりと落ち着きます。

コロナ危機を家族で乗り越える、素敵なスキルを身につけるチャンスだと思います。

安心して子どもを生み育てられる環境を1994年のエンゼルプラン*2のスタート以来、子育て支援のための施策としてあげられていますが、政策とともに家庭内での役割分担意識の改革や社会の男女共同参画推進も根底に流れる大きな課題だと感じます。

*1 おむつバッグ

*2 国の少子化対策として策定された、最初の体系的な子育て支援計画





男女共同参画センター 催し物案内

- ★特に記載のない場合、申込先は【男女共同参画センター】、開催場所は【市民プラザ】、
託児は【無料／1歳半～／定員3名 ※7日前までに要予約】、受講料・相談料は【無料】です。
★新型コロナウイルス感染症の影響により、中止・延期になる場合があります。

講座

“私らしく両立したい” 子育てママのステップアップ講座

子育て世代のマナー・ライフプランセミナー



子育てと仕事の両立を考えている女性を応援し、自分らしいライフキャリアを考える連続講座です。

Step 3【実践学び編】では、教育費・マイホーム・老後など、子育て世代が気になるお金事情について学びます。

■とき / 令和3年2月6日(土) 10:15～12:00

■講師 / 藤原 寛子さん

〔社会保険労務士、ファイナンシャルプランナー、
キャリアカウンセラー〕

■参加方法 / 会場参加 10人・オンライン参加 5人

相談 第3回女性のためのチャレンジ相談

就職や育休復帰、起業、在宅ワークなど、仕事に関する悩みや疑問にアドバイスをを行います。(面接相談)

■とき / 令和3年3月10日(水)

■相談員 / 藤原 寛子さん

■時間 / 1回 50分(各回1名)

①11:00～ ②13:00～ ③14:00～

■対象 / 市内在住、在勤、在学の方

講座

すっきり暮らそう！ シニア世代の整理収納術



子どもの独立や定年退職を迎えるシニア世代が新たな人生をスタートさせるため、整理収納術を学ぶ講座です。

介護の負担軽減やケガ防止、家事時間の短縮、終活にも役立ちます。

■とき / 令和3年3月5日(金) 10:30～12:00

■ゲスト / 野間 和美さん

(おうちじかん代表、整理収納アドバイザー)

■参加方法 / 会場参加 10人・オンライン参加 5人

相談

女性のための悩み相談

女性の専門相談員(カウンセラー)が相談に応じます。

■とき / 令和3年1月26日、2月9日、2月16日、
3月2日、3月9日(いずれも火曜日)

■時間 / 1回 50分(各回1名)

①10:30～ ②11:30～ ③13:00～

■対象 / 市内在住、在勤、在学の方

■相談方法 / 面接相談・電話相談・オンライン相談

生き方、子育て、仕事、夫婦のこと…

女性が抱える様々な悩みの相談

その他の相談窓口

「配偶者等からの暴力相談(丹波市)」

DV(ドメスティック・バイオレンス)について、ひとりで悩まずに、まずは電話で相談してください。

■とき / 月～金(祝日を除く) 8:30～17:15

■電話番号 / 86-8730

(丹波市配偶者暴力相談支援センター)

「男性のための悩み相談(兵庫県)」

家庭や職場での人間関係、定年後の生き方についての悩みなど、男性臨床心理士が、電話で相談に応じます。

■とき / 毎月第1・3火曜日(原則) 17:00～19:00

■電話番号 / 078-360-8553 [男性相談専用]

(兵庫県立男女共同参画センター・イーブン)

男女共同参画 “キホンの木”

毎年3月8日は「国際女性デー」です！

国際女性デーとは、国や民族、言語、文化、経済、政治の壁に関係なく、女性への差別撤廃や地位向上などを目指し、貢献した女性の勇気と決断を称える日として、国連が決めました。イタリアでは同時期にミモザの花が咲くことにちなみ、「ミモザの日」とも言われており、シンボルカラーである黄色を活用し、世界中でイベントが行われています。

2020年に注目を集めた女性の1人、カマラ・ハリス氏。バイデン新政権で副大統領に就任した彼女は、すべての人の平等・自由・正義のために多くを犠牲にして闘った女性たちを称え、「私は女性として最初の副大統領になるだろうが、最後にはならない。なぜなら今夜、ここは可能性の国であるということを、すべての少女が目目の当たりにしたからだ」と演説したことが話題になりました。





事業報告

男女共同参画基礎講座

第2回「災害支援や防災減災に、 男女共同参画の視点を」

日 時：令和2年9月27日（日）
講 師：寺本弘伸さん（認定 NPO 法人日本災害救援
ボランティアネットワーク常務理事）

第2回は、カードゲーム式の防災教材「クロスロード」を体験し、防災について、男女共同参画の視点から考えました。

災害を自分の身に引き寄せて考えると同時に、他の参加者のさまざまな考えを知ることができました。



防災クロスロードゲーム例題

あなたは、川沿いの市民。
母（75歳）、自分、娘（10歳）の3人家族。娘は昨日から熱を出しています。先ほど、氾濫の危険があるとして避難勧告が出されましたが、新型コロナウイルスが流行している今、避難所に行きますか？

YES（行く） or NO（行かない）

・・・参加者の声・・・

★災害は他人事ではなく、普段からの心構えと素早い決断が必要であることを実感した。

第3回「DVの現状と子どもへの影響 ～あなたがもし相談を受けたら～」

日 時：令和2年11月28日（土）
講 師：北村久美子さん（生涯学習応援隊 so-so.39 代表／NPO 法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ デートDV 防止講師）

第3回は、DVが起こる背景や実態を知り、正しい理解を深めるとともに、パートナーからの暴力に苦しむ人からの相談を受けたときの対処法を学びました。



講師は、「相談を受けたら、相手の話を聞き、信じてあげること。そして『あなたは悪くないよ』と言ってあげることが大事」と話されました。

・・・参加者の声・・・

★小さなことでも、見ないふりをしないことが必要。
★子どもの頃から、正しい人権感覚を養うための学習機会を持つことは大事だと思った。

丹波市男女共同参画講演会「男性が介護するということー男女共同参画の視点から」

日 時：令和2年10月22日（木）
講 師：津止正敏さん
（立命館大学産業社会学部特任教授）



男女共同参画センター開設1周年記念として、「男性が介護する」というテーマで、男女共同参画を身近で具体的なものとして理解を深めるための講演会を開催しました。

これまで当たり前に女性が担ってきた介護ですが、今や介護をする男性は100万人を超え、介護者の3人に1人が男性だといわれています。

主たる同居介護者が「子の配偶者」から、「自分の配偶者」や「自分の子」に推移していることや、介護のかたちが、「働きながら、子育てしながら、通院しながら」という「ながら介護」に変わっている現状、また、男性ならではの苦悩の事例について教えていただきました。

講師は、「介護が肯定され、介護者を孤立させない場づくりが重要であり、介護のある暮らしや働き方が標準である社会を目指すことが大切」と話されました。

・・・参加者の声・・・

★この先どんどん高齢化社会となるにあたり、男性女性にかかわらず全てのことを協力し、それぞれの固定観念をとりのぞいた時代になっていくべきだと思った。

▶▶男女共同参画の推進に関する年次報告書を発行

丹波市では、丹波市男女共同参画推進条例第24条に基づき、第3次丹波市男女共同参画計画に基づく施策の実施状況を把握し、その進捗状況を年次ごとに評価し、その内容を公表しています。

このたび、令和元年度の年次報告書を作成しました。男女共同参画センターに配架していますので、ぜひご覧ください。市のホームページからもダウンロードできます。



市内で男女共同参画社会を目指して、いきいきと活動をしているグループを紹介します！

『丹波 根っこの会』（会長 山本 浩子さん）

女性農業者同士のつながりの形成や、農業を楽しみながら農業経営に参画し、自立した女性を育むことを目的に、令和元年9月、「丹波 根っこの会」が発足しました。生産者だけでなく、農作物の加工をしている方など、多様な「農」に関わる女性24名が活動しています。



左から、宮崎早織さん（副会長）、山本浩子さん（会長）、関美絵子さん（副会長）

「農」をキーワードに、仲間と繋がる

昨年度は、特産物のPR活動・販売活動の一環として、神戸大学と共催し、「繋がるマルシェ」に参加したり、南あわじ市の女性農業者との交流会を行ったりと、精力的に活動しました。



宮崎さんは、「月1回の定例会では、それぞれの興味のあること・疑問になっていることを話し合い、どう解決していくかを考えます。活動はまだ小さいですが、メンバー同士の繋がりは深くなってきています。」と話されました。

お話を伺った日は、食品表示ラベル等の講習会を開催し、10名のメンバーが、講師に質問をしながら熱心に学びました。

今年度の活動で困ったことは、やはり新型コロナウイルス感染症。参加予定のマルシェが中止になり、

定例会も2回しか開けていません。しかし、「何かしなければ」と話し合い、この日の講習会を企画されました。

「講習会はメンバーでないと受けられません。もっとたくさんの人に聞いて欲しいです。」と、関さん。山本さんは、「『根っこの会』の存在を知ってもらい、一人でも多くの人に入会してほしいです。」と熱く話されました。



アスパラガスを新たな特産品に

今後は、メンバーで協力し、アスパラガスの栽培に取り組み、新たな特産品として生み出すことを目指しています。

アスパラガスの旬は、春から秋。メンバーのひとりが苗まで育て、その様子を見学し、栽培のノウハウを学ぶそうです。

山本さんは、「どうしても、それぞれ苦手分野はあります。一人で育てていたら、悩むことや落ち込むことがあります。みんなで同じことに挑戦したらお互いに相談ができるし、成功率もあがるはず。ぜひ、成功させたいです。」と、強く語られました。

根を張り、さらに広げていく

団体名には、「みんなで集まり、根を張って、さらに広げていく」という思いが込められています。

今後も、分野の枠にとらわれることなく、多様な農業者が繋がり、そして、互いに切磋琢磨し、農業を次世代へと繋いでいきたいと展望を抱いています。

「丹波 根っこの会」に興味のある方は、お近くの会員または農業振興課（74-1465）までご連絡ください。



丹波市男女共同参画センター

〒669-3467

兵庫県丹波市氷上町本郷 300 番地 丹波ゆめタウン 2F（市民プラザ内）

開館時間：10：00～18：00 ※毎週月曜日、年末年始（12/29～1/3）は休館日



TEL：0795-82-8684 FAX：0795-82-8692

Mail：danjyo-center@city.tamba.lg.jp

URL：https://www.tamba-plaza.jp/danjyo-c/

令和3年2月17日（水）は施設設備点検のため、臨時休館します。



丹波市男女共同参画センターって？

- ▶ セミナーや講座を実施しています。
- ▶ 地域の人材を育てます。
- ▶ 活動の場の提供や、仲間づくりをお手伝いします。
- ▶ 女性のための相談を実施しています。
- ▶ 女性のチャレンジを応援します。
- ▶ 図書や資料の貸出や閲覧をおこなっています。

お気軽にご来館ください♪